

新編水滸畫傳

五編

九



門 遠 21
號 875
卷 49

新編水滸畫傳卷之四拾九

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十三年七月十日 購

○飛虎心を同じて水泊小飯を
宋江が呼延灼と討て。法政が小遇しめ。又彼呼延灼が系する沙湯
の名を李忠を奪て魯智深小送りし。此は又乞て呼
延灼小還し。大を収び射し。法政豪傑再び孔明と救
ん計を商議し。軍師呉用が云り。呼延灼が軍を、して城門
を突く。容易孔明と救。法將の勞をまじ。宋江を呼延灼
小討して云ら。我實に城を落さんと貪る。今孔明孔
賓主州の牢中に立て。縲綑の危に遇り。この危に我を救う。飲
。公痛うにあり。將軍の計して城門を突く。彼と救

新編水滸畫傳卷之四拾九

らんを易くしん。呼延灼が云我己に宋君の情に一命を饒されし。
 理をさか力と居すべしとるに。いんぞ是と辯せんやとて。其夜秦明
 死榮孫立。燕順呂方。郭盛解珍解宝。鵬王英。ホ十人と軍士の
 形に歩立せし。呼延灼これを引共に二十一騎。城の辺に立て。大不
 呼て云。あく城門を居け。呼延灼一命を賜れて。逃回れ。城を呼延
 灼が怒りて。慕容知府に初と告るに。知府呼延灼を擒ふせしれ。
 憂居る折箭ありし。今け云とて。大不慌て。忙さ城樓上
 て城外を歩し。に。十餘騎を並べて。お勅へし。知府いま其
 面とを見。あし。さし。呼延灼が怒りを。刺回て云。ハ。將
 軍。今般款の諜。小中て擒とる。い。く。して。再び。呼延灼が云
 身向小陥。沈小陥。捉えれ。我が手下に立。今

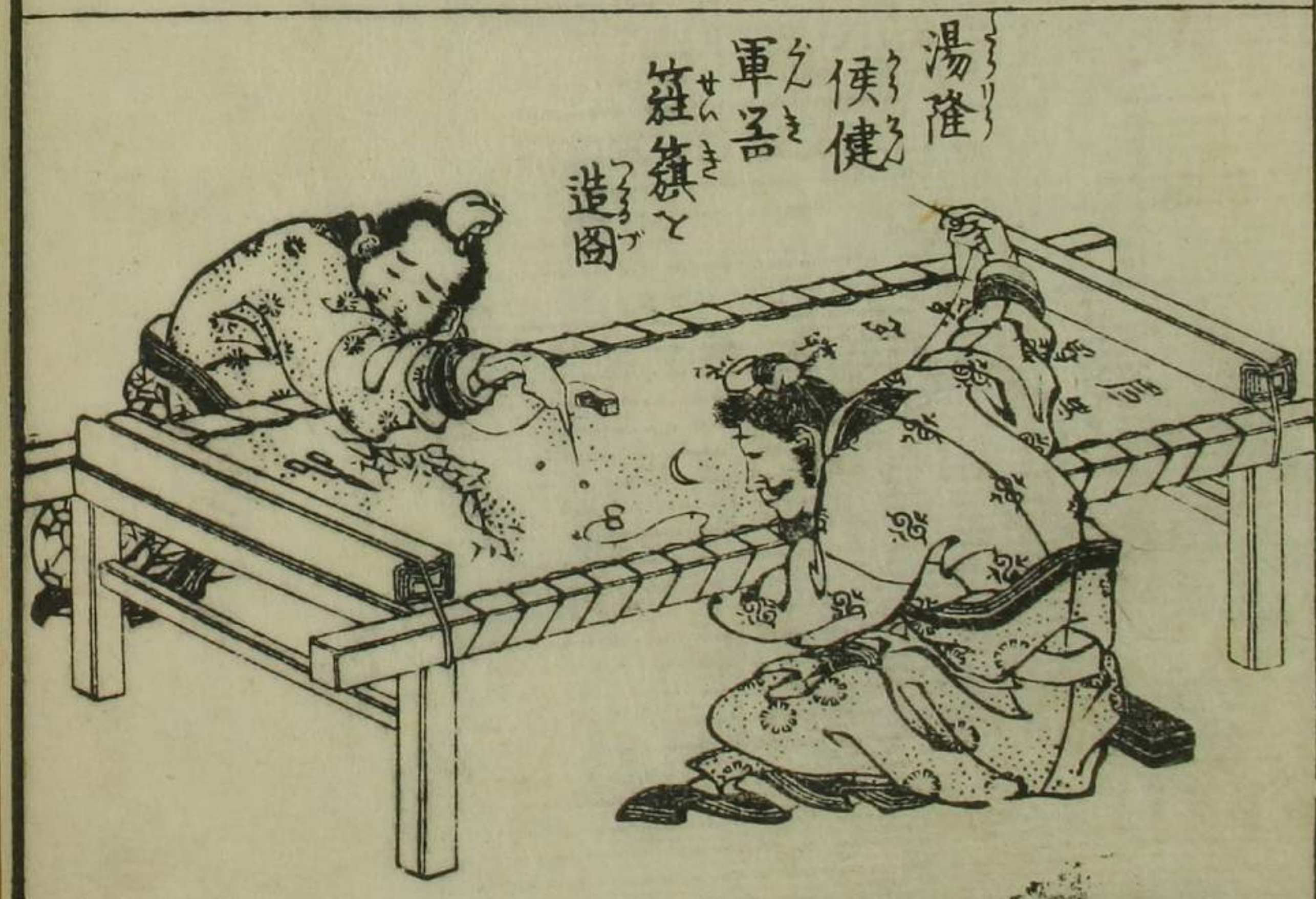
宋江小隊系して。陣中にあり。我活捉れ。我見て。暗に。盗
 素小。共に陣中。逃をて。日。く。に。知府。と。て。城
 樓。下り。馬。小。乗。自。城。口。の。辺。小。来。て。軍。士。に。擒。と。り。呼。延
 灼。遂。小。十。人。の。豪。傑。引。て。城。中。に。入。り。知。二。秦。明。お。く。も。棒。と
 奉。て。知。府。と。る。より。下。に。歩。落。し。ぬ。解。珍。解。宝。火。を。放。て。城。中。に
 焼。拂。ふ。鵬。王。英。ハ。官。軍。未。と。敢。教。は。時。宋。江。ハ。城。中。に。火。の。起。り。
 と。見。て。三。軍。と。引。て。馳。来。り。一。齊。と。叫。と。城。内。小。孔。れ。入。守。に。急。と。軍
 令。と。傳。へ。て。居。民。と。換。し。め。先。軍。中。より。孔。明。叔。姪。と。救。い。出。し。庫。の
 内。有。る。金。銀。珠。寶。と。々。々。奪。取。り。城。外。に。運。ぶ。せ。慕。容。知。府。が。卷
 盾。一。く。首。と。刺。小。り。翌。日。宋。江。火。難。小。遭。る。百。姓。も。は。今。銀。と
 分。与。へ。金。銀。眉。と。れ。疑。を。救。ひ。又。次。と。る。如。の。金。銀。は。約。て。六。百。車。其

外る物の具と改するハ其數と知べく流宋江大に三軍と賞せり即日
降時と嘆へく魯智深李忠孔明ホ三山の既飲も其に梁山泊に
加ふるじと議定して各山時の人るるびに去糧ホと恰收免日
宋江に随て梁山泊へと急ごり宋江三軍に命して後乃氏と犯に
こりりし六釘の百姓をたて老を助け幼さを抱てお迎に宋江
是と心平に悦び一向三軍を備候して後を急しる不日に
梁山泊の辺にありりり小軍の既飲ホ船を具へてお迎ふ晁蓋ハ自
依豪傑と共に金沙灘ホ至て宋江ホと迎へ坐ち聚義廳に至り
て各座を列ねし如に呼延灼魯智深揚志松施恩曹正張青
孫二娘李忠周通孔明孔亮於て十二人の新系既飲ハ晁蓋と始と
して山時の後既飲ホ一と對面し各座がと限りし林冲昔日魯

智深に救されしとせ後て流これと附しる魯智深が云哉
彼日滄州に於て教既飲ホ別れてより心算久しく音耗せも
りる今自再びお遇こと縁深き由えんとしておほし悦びり見蓋又
揚志に對して高初黃泥星とて生辰の孔物を奪ひ死しとせ後り
呉用公孫勝劉唐と既兄骨白粉と一笑と惜りり相宋江ハ這回
又十二人の豪傑と於て心中益を候し別湯隆に命して各千の
軍差と送りり候候る三九臘年又方二十八宿の勢と送り
り山時の方へけりり流と送りりり又二名の酒席
と作り流て張青孫二娘ホ南極の酒席とせ孫新顧大嫂ホ
流の酒席とせりり世間の名無者凶と探候りり天下の英雄と
招くしむびりり梁山泊日々に流んりり後既飲各嚴密ふりり



醉中筆



不才者も
已に数月過りたる如く花和尚魯智深宋江に遇て云々の事一人の
朋友ありしが魯智深を九紋龍史進と号して今ハ別異州異隆縣少
華山に住居し山に系某三人の跡あり一人ハ神機軍師朱武一人
ハ跳洞虎跡遠一人ハ白花蛇揚妻と有り史を以て三人の者とする
人をも集めて少華山と名する我先に瓦礫寺不於て敵を殺す
時史進が助けに依て難を脱れぬれ小よめく我胡夕史進がとて濁
虫は少華山に馳て彼を訪ひ置し口人の志を誘引し
山陣不取るべし魯智深の号あるといふ宋江が云我も魯を九紋龍が
雷怒と号し魯和尚被地に馳て彼を口人と誘引しぬる是十か
福ひやうん武行志と付して行変武行志を以て我和尚に馳て
馳行べしと魯智深しうられは日魯智深武行志とらに張羅を個へ

法政小別れて山をりて魯和尚縣と号して魯智深の魯智
深武行志と人ごとく源く思ふて心せんと魯和尚と馳て人
消息を探しぬる魯智深武行志の石日に少華山の林不取る
小絨不洛と探して同多は汝友人の傍は何由なは知れぬるや我
が云は山陣に九紋龍史進と云人のりや小絨が云汝友人魯史大王を
訪ふ人なり少くは知れ在て汝有之少華山陣に上て既既に告る
来し武行志者か汝去て既既に告ん魯智深来て史を以て訪ふ
と云べし小絨を以て山陣に上りるに少刻神機軍師朱武あり
跳洞虎跡遠白花蛇揚妻三人のりて魯智深不友人に迎へ
るも独史進のんえざりられ魯智深問て云史を所の何れ小のり
恭しく礼を以て云るの和尚の延賓府の魯智深とてのりて魯智深

源が云我判魯提轄之。又比仍志系湯屋して虎攻殺し一方武松と
云その之三人の既飲れんと夢て忽ち地上に跪て中なるへ来り友位の
六名を少と久し比間は二竜山小居有ふと沙汰を了ん今日何れ比
如不即りむひぬる也。智源が云我が守今二竜山と棄て梁山泊小せり
ぬ我比回史大府小遇んが特く比知に到れり。朱武が云已にかくの
ごとく比先山陣に上り方系詳に極子を修りしん魯智源が云極子
わらび比知うて修るも何の妨りあらん。武松も又三人の既飲小對
て云らるは和尚の系来急性の人有り極子をばよく修りひんん
朱武が云系あつ三人比山陣と修り居りし比史大府加りりて後
比對史智源昌しりれた比比史大府の修らざる禍と被りて山陣ふあは
る禍の牙歴いんぞるん史大府の旧知系系大明の人王義と。画

師西岳美山の金聖帝廟小宿那の事ゆめて玉嬌枝と云女を
帯し系清しり知に高府の賀太守の系蔡太師が門人して貪欲
無道の者有りるが不思彼玉嬌枝が容儀好とんて早速娶て妻に
せんと欲し再三王義にんを強りれども王義これ小断らざりしを
賀太守大小怒り強小奪れて妻と割し王義と云実の罪小断
遠因小流さんとる時友人の下友王義を監押して比山の下をさ
し如小忠比史大府に遇し王義大小候び事の及身一詳に告
りた。史大府これと彼とを傍り財友人の下友を殺して王義を救
ひ於賀太守と報えんとて中州裡に馳りて却て賀太守に脱
れ遂に擒と有りて牢中に在太守又人をも奪し比山陣とも破
らんと欲比比由るに系對に難有る魯智源是を破て怒り心既

軍装を掲げおぼろしく魯智深を見せ、心中に怒り、我れ、笑て守
 を歩地ぞんべ、却て彼らに笑せられん。率ふに、下へ下へ、とて、只願
 躊躇して、を、一、ふ、笑て、轎の内より、智深が、勅諭を見て、心中
 に、深く、是を、疑ひ、已に、櫓を、過て、鼓に、なり、別ち、家人、を、命じて、云、ら、い
 今、櫓の上、おわり、一、大和尚、齋を、施え、と思へ、汝、跪て、誘ひ、せよ、と
 作せ、ら、ん、家人、命を、ま、つて、櫓の上、に、なり、別智深、小、詰て、太守、が、旨
 と、云、ら、る、に、智深、是を、笑て、私、小、忠、及、我、今、子、成、下、して、彼、を、お、企
 罵り、し、く、お、怒、く、は、大、勢、に、探、ら、れ、候、つ、も、わ、ら、ん、と、お、誓、く、想、ら、る、候。
 彼、却て、我、を、お、企、ひ、豈、彼、が、運、の、そ、ら、お、め、ら、る、げ、や、と、て、お、速、使、に、隨、く
 太守、が、鼓、に、お、り、ら、る、に、太守、お、い、敬、し、り、家人、お、い、作、せ、て、計、を、伺、へ、し、り。
 別智深、に、釋、杖、戒、刀、を、除、せ、ら、れ、ば、智深、初、の、間、お、承、允、せ、ざ、り、と、も。

法人、却て、云、ら、る、に、和尚、何、ぞ、釋、杖、戒、刀、を、帯、し、て、後、堂、お、入、ら、ん、や、是
 出家、の、お、い、ま、さ、と、い、た、の、に、智深、お、中、に、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 我、お、い、ま、さ、と、い、た、の、に、智深、お、中、に、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 戒、刀、を、棄、て、後、堂、に、入、ら、る、知、れ、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 眼、明、く、ら、い、に、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 遂、に、大、勢、に、活、捉、れ、空、く、牙、を、咬、む、ら、う、と、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 に、引、出、し、ら、れ、ば、太守、大、小、怒、て、汝、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 云、我、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 何、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も
 ぞ、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も、お、い、ま、さ、ら、う、疑、ひ、釋、杖、戒、刀、の、を、ら、る、も

卷て我とせんせし。又躊躇して遂に止め。汝実落し白状す。魯
 智源が云我嘗て汝を犯さるに。汝何ぞ我と捉へ辜るんを責るや。
 右守罵て云汝が風俗撻振侮に出家の神小の汝を必定山丹不
 樓盜緘してぞありん。但し史進が為に仇と報えんと欲するや汝り
 白状せまん痛く拷問せんとして。そでにたたと看去りらる。智源大いに
 悔つて云汝ありに我を神と打傷ふと云れ。我を梁山泊の豪傑魯智
 源と云知識之我を死す者。悔まざられぬ。若宋公明人を引て去るべ
 酒が春房。却て殊戮を免さる。賀右守是を咄て大不覺り。先魯智源
 と數十鞭赤し。牢中に入盡り。以沙汰真州城小者なりし。彼
 小賊這消息と咄。飛がく少集山小地。海り。和と竹へり。或松を
 咄て大不覺り。我智源と友人に訊にあり。已に一人を失て河の面目う

わらん。以上を我も又死と致えん。之を只顧憂て居り。一人の小
 賊来て云梁山泊の既神竹を保戴宗と云人。今簾にあり。夕ひぬと
 報とり。武松急に山を下てお迎へ。おちれ。聚義廳不延て。朱武三人
 小邊りし。魯智源徳と密にし。と具に送り。られむ。
 戴宗大に驚て云。已にかわらぬ。我を先一刻もあく。故て晁宋。友
 友小報速に軍を急。魯智源史天師友人と救ふべし。武松が云
 我を殺しぬに。立て待甲さん。公い。あく。ゆりて。急不。来り。史戴宗。時
 山と下り。神竹の法と。て。弛られ。終三日の内。以梁山泊に。て。晁宋
 友人に。ま。えて。魯智源。独自。史を。救。えん。と。て。却。て。捉。え。れ。ら。れ。む。
 と報るに。宋は。大不覺り。て。云。路。亦。わ。くの。ど。く。ん。の。友人。の。豪傑。を。救。せん。が
 あり。と。速。人。を。遣。し。三。子。に。ま。り。て。を。送。り。軍。の。大。約。の。死

榮。秦明、林冲、楊志、呼延灼、木の又、既、三子の人をも引く先陣と云。
中軍へ大將、宋公明、吳學究、朱全、徐寧、關公、雲木の六傑、二子の人
馬を引いて、秦、白、後軍の大將、李愬、楊雄、石秀、李俊、張順、木の又、既、
日、二子の軍をも引いて、も、玄、撫、兼、當、宋、木、已、に、晁、天、長
お別れ、陽、日、山、陳、と、下、つて、も、ち、に、美、州、城、へ、と、急、し、ま、不、日、に、も、ち
途、と、さ、ら、に、先、戴、宗、と、馳、て、小、美、山、小、郭、と、告、め、ら、れ、ば、朱、武、ら、三
人の既、既、の、酒、宴、と、役、け、て、宋、江、が、人、も、の、あ、り、と、侍、ふ、り、

○吳用金鈴吊掛を嫌は

扱も宋江が三軍已に少美山の下にありし、朱武、志、刺、三、人、の
既、引、て、宋、江、吳、用、并、に、既、既、に、見、え、し、む。朱、武、恭、し、く、張、
大、將、と、侍、て、山、陣、に、あ、り、持、く、答、復、と、言、し、り、宋、江、具、し、く、城、

中、の、こ、と、言、ひ、ら、る、に、朱、武、著、て、云、魯、智、深、史、進、今、已、に、牢、中、に、あ、り、
左、守、唯、勅、命、と、侍、て、罪、と、改、め、せ、ん、と、稱、は、宋、江、も、と、つ、て、吳、用、と、談、し、
て、云、ら、る、は、い、う、身、計、と、用、て、彼、女、人、と、救、え、ん、や、朱、武、が、美、州、へ、東、東、城、
廣、く、し、く、濠、深、く、要、害、む、望、ま、し、く、美、州、の、計、に、あ、り、と、ん、必、責、
落、し、く、こ、の、あ、め、ん、吳、用、が、云、先、法、に、城、邊、に、馳、て、城、郭、の、虚、実、を、窺、ひ、
重、復、計、と、施、す、べ、し、宋、江、は、云、に、日、ト、明日、あ、く、馳、行、ん、と、激、し、ら、る、に、
吳、用、が、云、今、城、中、に、女、人、の、豪、傑、と、捉、へ、し、必、定、使、し、と、望、み、防、ぐ、べ、し、
白、昼、に、行、ん、と、不、可、あ、ら、ん、今、宵、月、色、明、く、ら、る、と、言、申、の、別、後、
に、山、と、下、て、一、更、の、時、分、に、あ、ん、暗、小、屋、小、屋、と、て、城、を、伺、へ、し、と、も、
漸、く、午、の、刻、も、過、し、く、宋、江、吳、用、花、榮、秦、明、朱、全、結、て、又、疏、遊、に、山、
と、下、て、美、州、城、と、登、り、で、馳、ら、る、に、果、し、と、初、更、の、時、分、に、城、外、に、あ、り、



賀太守謀
花和尚を
殺す

図



十一

山攻の言さぬにると砲上て善州の城中と争らるに。比時二月の
中旬より月夜登のづく上天に一木の雲もたう。善州城の四方は数
個の城門ありて城をく濠深く。要害究く堅固。又その西岳
善山と争らるに。戦くとして。善州小峰へ勢ひを險阻する。宋
江忠と何れに計を絶えやうも。呉用が先少善山に帰て
商議をす。と。呉用の大将變を並べて再び山攻に回し。宋江の
城の要害嚴密として計のゆれざる。城の心中にこれと患ひ。城の
枝うに見え。と。呉用が先少善山に帰て。城の
消息をきせんとして。昨日人を擇て山を下り。終に三日の間に
一人の走馬回て告る。今朝廷より殿司右尉に湯湯の金鈴吊
掛を付與し。西岳に燒者のめり。西岳より渭

水り入て。と。呉用これと。宋江に。と。呉用が先少善山に帰て。城の
中へのり。と。呉用が先少善山に帰て。城の
李俊が。と。呉用が先少善山に帰て。城の
と。呉用が先少善山に帰て。城の
比日二人の。と。呉用が先少善山に帰て。城の
延灼。と。呉用が先少善山に帰て。城の
に渭河の。と。呉用が先少善山に帰て。城の
船と奪。と。呉用が先少善山に帰て。城の
存の上に。と。呉用が先少善山に帰て。城の
揚。と。呉用が先少善山に帰て。城の
明。と。呉用が先少善山に帰て。城の

の上の一面の美態と建るるが、旗の上の文字あり刑

欽奉聖旨西岳降香太尉宿元景 と云十三字之宋江は

文字と云んで心中に思ふ昔日九天玄女の言も宿小遇て重々

喜ぶと社をりれば今日宿氏の太尉に遇ひ必死に言小夜する者らん

とて暗ふれと飲びり宿太尉が友船遊く近づくれば宋全李意各

衣袋と持て宋江具用が背後小立擅小友船と揮りらるに官船の内

より二十餘人の真候出てゆりりらる汝等何者なれば朝廷の大官を

揮るや宋江是と笑て恭しく船傍小跪く具用が梁山泊の義士

宋江疾走して船と待なる友船より答て云は船の朝廷の太尉物命

とまで西岳に降るもの友船の汝梁山泊の義士と稱し何れ奪りに

旗と揮るや具用が云来り只宿太尉の舌舌とねしと一車と者らん

と欲に真候ホが云汝危人何の事まで太尉に見えん」とと勢

が云督々の間太尉と待て舟より共に一車と商議せんと欲するの

真候ホが云太尉の是朝廷の右官なるにいんを汝らが為に舟に上り

て事と商議めらんや必もこれとゆいさらん宋江が云太尉も出ぬ

むんば法の豪傑を尉と驚しり進すとめらんやといまも候しるに

宋全險と用て舟の上と振さるれば花榮秦明徐寧呼延灼人をも

引て河に弛来りるそく一連に立並び弓策立てお搦ふ友船の上より

是を見て氣皆大に驚るこ我先小と船舷の内小走り入船を尉は是を

と見て船傍に出りれば宋江身と躬て云来り敢て太尉を犯し心懸

よめりば宿太尉が云已に汝ら何由又義士ら友船と揮るや宋江

が云来り只太尉と待て舟より一ツの事と若商議せらん

欲以宿志射云我以此勅命と奉つて西岳に就く勅使たりふ豈
極く一々上て閑事に干んや宋に云云射り一々上りぬらんが
石く水陸の人多を射せ犯しやんと僅に云罷り一射小李俊
と揮て招き一々李俊張明楊表船と一度に漕で出するを射以執ひ
て見て大小孩さりり李俊張明明晃々刀を抜て友船に跳乗まづ
友人の虞候と水中に湯あしり宋に急に呼てらぬら安りに朝
廷の事友と怒り一々あしりすと割しられ李俊張明齊しく
水中不跳入り彼友人の虞候と仰けて再まび船の上に投より李俊
張明水面小な平地小登るごとく又船の上京跳より宿志射これ
見てまどと懼し一々魏梓小附ざりり宋に又法人小射して云ぬ
先此れと退け我宣し一々を射と信て岸に上りせをす手七宿志射云

義士何ホの事わりや只此れおて傳りゆ何の妨々わらん宋に云は
ぬ先法まるぬわりの傳で右尉と少華山小信まつて心事せ傳へ
中へ一々射て右尉と傷ん心は是是吳心と懐く事わりん西岳の林の
罰と多り殊哉と免るま事已に此れぬり何と執ひて免せせんや伏
して辱るる速に宅居一々宿志射梓すと能はる小より一々
一人一正のる率て右尉と信ひ糸一々ぬけて少華山小信ひりり宋に
信豪傑小命一々友船の信友軍兵に金銀吊掛多々物及く山
陣に収め一々遂小聚義廳にぬりり大尉と信く座の中央小坐せ
り宋に別ぬせな一々て云らるる素へり一々鄆城縣の押司より一々も友府
より世と通られ已とせぬすして信の義士と信小梁山泊に上て各處で
避けも一々朝廷の由教免と信て信の爲小力と信えんと欲以今友人の

既飲笑守子授もんで死牢の内に入り。むけ志入牢する根奉へ皆本
 人の方小死すべし罪あり。笑守の非乃より飛。我事友人を救もんぞ。
 欲まれば計のひいごりぬわめてあごり下さば。此度かの汚者祭物吊掛
 令殺ホと物借しきて。怒り。子尉小似せ。笑守と謝て真州に
 入んと欲は事已に濟りる。子速還し。子尉のくを尉これ
 作し。更密を尉が云。笑守の汚者ホと借し。計せり。明日此事
 露もれれば。我死罪と慕ん。小何を容易これと免さん。宋に去る尉
 海京の幕り。いゆ法わん。時罪と効て宋にが身の上に推干。更宿太
 尉暗に法既飲と見る。各夫不為の勇士と笑えて。風俗権振
 他小異りし。公中。彫る。これと及れ。遂に兼引し。り。宋に大に悦び
 子速酒宴と役けて。太尉と款待まり。宋に又友軍ホが笑し。る。衣裳

と借て士卒小穿せき。因一人お貌儀し。る。をと擇出。乃ちこれ小宿
 太尉の衣服と着せり。めて勅使小假。宋に具用。客帳司の友小糖分。
 解珍。解宝。楊雄。石秀。の真候の友に出立。花榮。徐寧。朱仝。李應。の
 衛玄の友小似せ。そ外の志せ。の効て。茶衫と着。して。汚者祭物令珍
 吊掛ホと背き。朱武。阮進。楊表。太尉小陪侍して。山陣にる。秦明
 呼延灼。日ト。林冲。楊志。各一隊の人。と引て。友訪より。張向ひ
 を便に依て。城と築。んと。も。り。り。或。者。の。飲。り。ま。づ。西。岳。の
 辺にきて。等候。小戴宗。の。志。西。岳。廟。小。能。て。宿。者。尉。の。志。笑。守。と。報
 る。相。宋。に。法。既。飲。ハ。已。に。山。と。り。友。船。に。糸。遂。に。河。に。小。出。て
 岸。に。上。り。高。地。の。笑。守。と。報。む。る。に。及。ば。ぬ。並。に。西。岳。廟。と。呼。ぶ。で。来。り
 る。戴宗。の。志。岳。廟。小。出。て。報。む。る。に。及。ば。ぬ。に。役。人。ホ。に。報。と。報。り。ぬ。が。

然人未これとて、香花、燭、幢、幡、宝蓋、ホド、尚先小持し、り、恭
 しく途中に出て、由者と迎へたり。由ちに辱て西岳廟にありし、知小太
 尉、不枝のより、西岳廟の親を、小も遇は、由に友、廳の内、小入て、歌、り。
 以、尉、兵用、客帳司の友、小假、る、在、る、が、先、親、を、小對、して、云、る、は、以、般
 宿太尉、勅命、と、言、つて、涉、者、祭物、金、於、吊、掛、ホド、推、げ、な、り、な、ひ、て、以
 廟、子、從、養、あ、る、に、尚、美、州、の、右、守、ハ、何、由、急、上、と、經、ん、ト、未、ど、來、ら、ざ、る、や。
 親、を、養、て、云、已、に、今、人、と、詭、て、殺、ら、る、定、め、て、少、刻、身、死、し、と、未、ど、云、も
 終、ら、ざ、る、に、突、太、守、が、使、者、と、して、先、一、人、の、推、友、を、小、又、七、十、人、の、軍、率、
 持、く、の、礼、物、と、携、へ、て、西、岳、廟、に、伺、候、と、叔、彼、宿、太、尉、小、假、ら、る、志、お、親
 然、し、う、び、と、是、も、京、小、城、の、事、な、ら、ば、そ、後、肆、う、て、若、保、り、や、あ、ら、ん
 孤、忍、れ、故、急、不、枝、の、辨、小、詐、て、官、廳、の、内、に、歌、で、具、学、究、ら、ん、小、留、て、推

友と對談、推友の暗に旌號ホド見るに、後も、先、朝廷の、由、於、り、
 六、先、路、も、是、と、疑、は、只、懸、數、小、假、伏、し、て、礼、物、と、献、じ、る、客、帳、司、具
 学、究、ら、ん、と、假、し、て、故、急、一、支、通、官、廳、に、付、て、右、尉、小、假、ら、る、辨、小、り、て
 右、尉、に、推、友、と、引、て、階、の、下、に、あり、し、ふ、推、友、傳、で、地、上、に、跪、く、假、
 右、尉、ハ、遙、り、と、滿、て、坐、せ、り、何、云、や、ん、只、一、支、句、云、し、る、を、對、更、繼、者
 う、と、て、考、て、唱、え、さ、り、り、兵、用、又、推、友、と、引、て、退、き、の、ち、拜、て、云、ら、ん、太
 尉、ハ、是、帝、の、愛、臣、と、云、ん、或、や、大、友、を、以、て、因、り、以、度、尚、廟、小、代、を、承、め、ら、る
 知、に、乃、中、に、於、て、病、を、以、ま、さ、る、不、枝、と、して、ひ、く、せ、お、ひ、ぬ、ら、ん、尚、地、の、貴、人
 ハ、何、由、急、これ、と、問、ふ、推、友、云、ん、以、度、右、尉、の、代、系、し、や、ん、と、い、先、に、是、て、知
 れ、し、も、唯、今、友、日、の、内、に、危、病、刺、來、せ、ざ、り、し、れ、今、日、の、恙、智、と、云、ら、ん、
 しく、相、迎、と、失、ひ、ぬ、尚、州、の、右、守、子、遠、伺、と、し、く、右、尉、と、伺、ひ、ま、る、べ、し

如に今少美山の盜賊梁山泊の強賊と勢を合せ近しく小賊と攻んと
 欲はば由多に守へ堅く城をもちてありに出さるれ先集を奪して落れ
 城上は守り已に城中の防を備へる少刻なり來てを射を伺はれ
 学究又へも。右尉ハ飲食をまざる辨され只守を待て法事
 これと商議せんとも別汚場の金鈴吊掛を取出して先推友おんせり
 され推友嘆でこれと抱えまらに城に帝の汚榻と覚えて今も金銀珠玉
 と用て飾り。右細に巧むるをそく急ぐべし。これ別聖帝殿の中央に掛る
 あり西の金鈴吊掛あり。是朝廷の榻にわすれん。いんぞよく民間小見
 わらんや。兵用を推友ハ先州裡に回て。右も不新と告ひて。おくまもど
 系流のりしり。我ちもとをに商議して。目と擇で射と定め。佐養のそ
 と烟を。推友者細於掌。遂に兵用に別れて再び州裡へ回らり。宋江ひと

うに金鈴吊掛と見て大に讚美し。想は彼推友家奸佞よりと以て。已に
 以金鈴吊掛の飾りと見し。上の必定眼と花め心と孔して。我斗に仲ん
 ずりして暗に是と懐びたり。は時我行去らば。廟門の辺に立て待し。ふ
 異用又石秀と奪して。武切志と脚けし。我に力と合せて事と行はせり。
 親を勇しく。清宮と役け。他人と餐食し。廟中廟外格門に執開
 たり

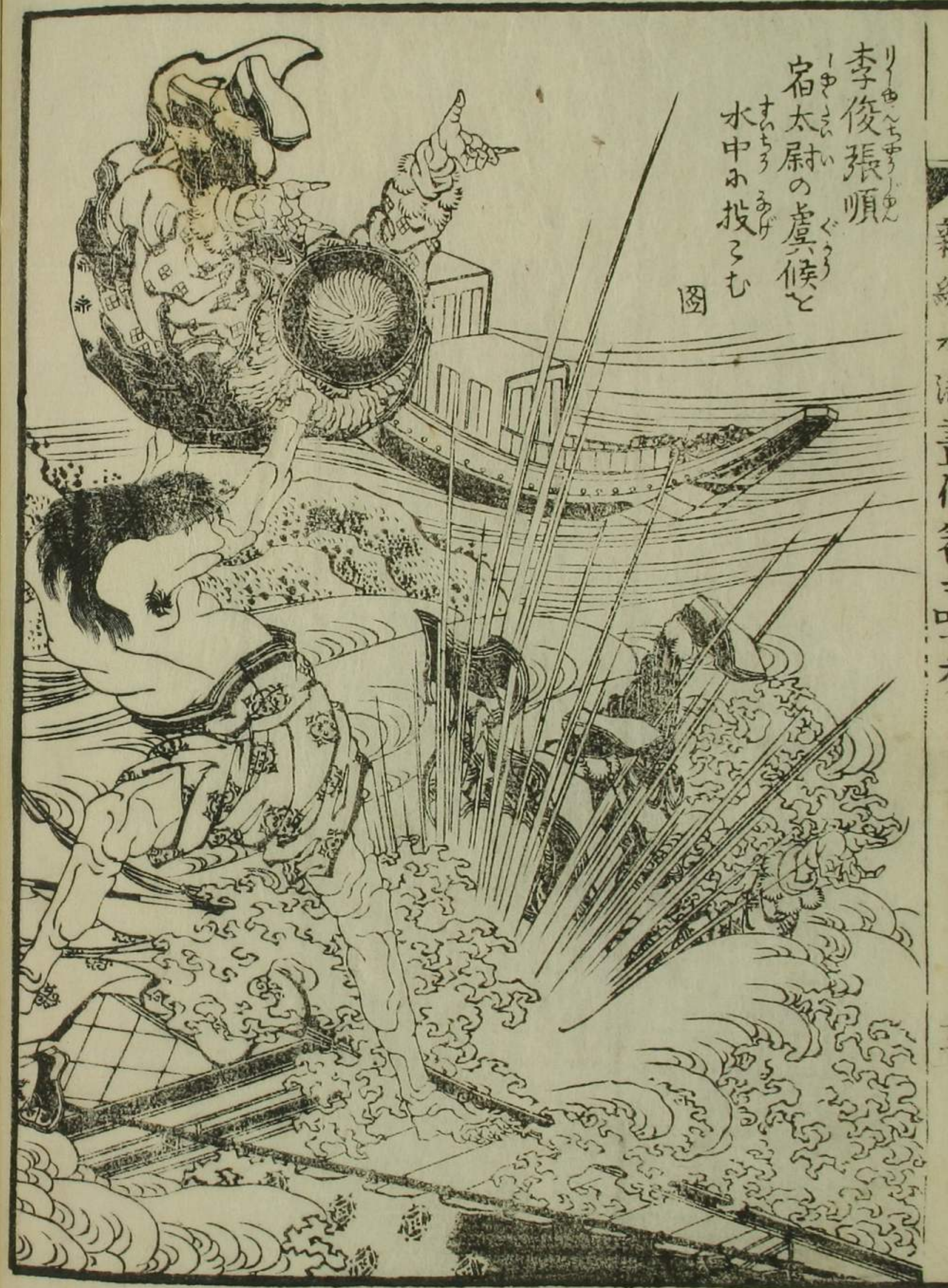
○宋江西岳美山と開け

宋江宋に廟中と遊覽するに。金門玉殿。碧瓦朱甍。日に映り光と塔
 偏に眼と驚し。むら半り。宋江立ちに殿上に登て。香と拈り。おやうして。
 暗に神明と禱り。再び友廳の前に回り。如に。實を守。取りぬと若くは。
 宋江氣に。花榮。徐寧。朱全。李應。ホに軍勢と持し。めて。友辺に立並ませ。



新編水滸傳卷之四十九

十八



李俊張順
 宿太尉の虞候と
 水中に投るむ
 図

新編水滸傳卷之四十九

解珍解宝揚雄戴宗宋江也日。軍兵持一。方丈小。並。世。共。に
守。が。守。と。待。小。り。扱。架。を。ち。の。三。百。餘。人。と。引。て。を。入。る。に。客。帳。司。小。似
る。宋。江。吳。用。を。守。が。大。勢。と。引。て。を。入。る。と。見。て。吳。用。大。小。呼。て。云。胡。廷。の
大。臣。宿。太。尉。と。引。て。居。る。小。何。と。あり。に。士。卒。と。引。て。廟。中。に。入。る。用。難
の。者。と。守。す。べ。う。と。と。制。し。な。れ。ば。架。を。守。是。と。守。て。士。卒。と。廟。門。の。介。小
守。り。重。已。一。人。を。入。て。歷。示。小。何。別。假。右。尉。と。守。ん。で。守。る。一。る。知。小
吳。學。究。が。云。ち。も。汝。小。罪。め。と。知。り。ぬ。也。を。ち。が。云。ち。も。以。来。に。何。の。罪
の。り。や。吳。學。究。云。右。尉。勅。命。と。奉。て。け。知。る。む。り。の。小。何。由。急。遠。く。出
て。迎。え。り。や。を。ち。が。云。ち。も。昨。今。の。内。小。飛。脚。到。來。せ。ざ。り。し。加。今。日。の。急。な。る。と。知
ら。ば。物。迎。に。及。む。ば。罪。の。免。し。重。吳。用。は。時。た。た。と。願。ふ。所。也
六。解。珍。解。寶。屏。風。の。背。後。より。跳。出。各。刀。を。揮。て。後。に。を。ち。が。首。と。割。小。り。り。

宋江も見て法政候に下知し。彼をもちに改ひ。ありし。三百餘りの
軍士も。各。是。と。見。て。大。小。驚。と。さ。然。て。慌。て。忙。に。強。勅。し。て。腰。を。抜。さ。ぬ。ハ
少。り。り。花。榮。小。劍。戟。を。揮。て。地。向。ひ。一。六。半。の。地。上。不。動。伏。し。て。罪。と。謝
し。ま。廟。門。の。介。に。走。り。出。さん。と。せ。し。知。小。成。形。を。不。秀。刀。を。挑。て。砍。散。す。
を。介。若。干。の。小。織。も。眼。に。案。下。押。落。し。討。死。す。六。三。百。有。餘。の。友。軍。也。一。人
も。漏。さ。ず。砍。伏。り。り。逃。く。に。お。續。て。居。る。友。軍。小。李。俊。張。順。皆。是。と。討。死。り。り。
宋。江。已。に。金。鈴。吊。掛。と。死。し。め。再。び。友。船。小。舟。と。て。東。州。城。の。辺。小。舟。に
知。小。船。中。に。入。る。も。友。船。小。舟。記。て。法。政。一。度。に。砍。て。入。先。牢。中。小。籠。に。普。智
源。史。を。あ。人。と。救。ひ。出。し。於。庫。と。歩。破。て。金。銀。珠。寶。及。く。奪。取。れ。ば。て
車。に。載。て。卷。込。に。入。り。危。皆。脱。れ。死。系。て。漕。回。り。暫。く。の。月。に。少。美。山。に
至。て。宿。右。尉。に。ま。ま。え。彼。金。鈴。吊。掛。等。祭。物。并。小。籠。衣。履。小。金。く。是。也

還して。太尉と謝し。初ち一盤の金銀を太尉に献じ。その外の友軍をも。又皆金銀と与へ。於新めて酒宴と具へ。宿を尉と款待多將奔を遣して。乃小既に太尉の法政飲と辞して。山をりし。宋に兵用并に法の豪傑をちり送て。河に流り。深く太尉と謝して。お別れ。再び小梁山に回。山頂を焼拂ひ。虎窟宋にに從く。梁山泊へと急ぎ。初を尉の友軍。し若に船に乘。遂に冀州城小をて。峯小より。知小。梁山泊の豪傑来て。賀を守と殺し。大に冀州城を圍し。方と。風吹頻り。りし。宿を尉。速表と修て。於に後去と。遂梁山泊の賊首宋に。道中に待て。金銀吊掛と奪ひ。九檀に勅使小假て。冀州城小を。入遂に賀を。殺し。金銀吊掛と掠奪し。て。具に奏す。太尉を先。岳廟に。河書と。樊金銀吊掛の。湯湯と。親之。与へ。急く。東京に帰て。け度。

ト。事は細に奏す。遂小り。初宋に。曾智深。史進。友人の英雄と救ひ。少梁山の。三。既。外。も。共。小。別。て。梁山泊小。回。り。初。の。所。の。民。と。接。毛。小。犯。さ。げ。り。し。は。百。姓。も。飲。毒。を。ち。と。限。り。し。晁。天。王。は。日。宋。江。が。海。と。寄。て。法。政。飲。と。共。に。山。を。り。し。お。迎。へ。大。に。三。軍。と。貴。し。人。を。と。款。待。り。已。う。て。數。日。過。り。乃。如。に。朱。貴。自。山。に。上。て。晁。蓋。宋。公。本。に。告。て。去。り。徐。州。沛。縣。の。芒。碭。山。小。を。新。に。一。夥。の。強。盜。を。総。て。三。子。を。作。の。人。を。と。集。め。く。山。陣。を。ち。り。し。一。人。の。先。生。の。姓。は。樊。名。の。瑞。諱。名。の。混。世。魔。王。と。号。す。法。風。と。呼。ぶ。每。と。與。で。急。と。利。を。と。神。の。ご。と。小。下。に。又。友人の。副將あり。一人。姓。の。項。名。の。充。諱。名。の。八。臂。那。吒。と。号。す。又。一人。の。姓。の。李。名。の。袞。諱。名。の。飛。天。大。聖。と。号。す。以。三。人。兄弟の。盟。と。結。んで。芒。碭。山。小。を。籠。り。も。く。家。を。亦。舍。と。切。ひ。り。る。が。三。人。強。定。し。る。

我が梁山泊と奪んと欲する。速に是と平げらんや。宋は大小怒て云は
滅るんぞ。此のどくどくは方の軍を記すや。我は又山と下つてこれと付んと。未だ
云も終らざるに。九紋龍史進も出て云る。未だ一人初て南涼小
郎も未だ守懸の功あり。形くは多勢を引て。彼城と生捕。第一戦の功
と試む。晁蓋宋にこれと告て。大小怒び。別ち軍を許し。されば。史
進即日朱武陳達楊志と共に。多勢を催し。晁蓋宋人并小強豪
傑に群し。列れて山陣と離れ。軍中に徐州と奪んで。馳り。終三日
ありて。もや芒陽山小をさぬ。此は往昔漢の高祖と斬る義を
起し。内ひ古跡之史を軍する。已に山の下にありし。小絨ら。是と
見て。速山陣小上て。注を流。叔史をいふと。死せ。高先小進も死
朱武陳達楊志も。お續て。跡出。一人一知る。と勅へて。警山陣

と平を居り。小果し。一魁の人。死せ。小龍下。高先小二人の
大お變と。双へる。と。瀧せ。八臂那。叱頂亮と。死。天大聖李哀。已小
軍近く。陳と對し。小史進。百人の大。お陳。前に。立て。戦を
挑む。敵の。大將。これと。是て。大小怒。軍と。をめて。戦と。始。め。る。未。だ
多。い。ま。ご。ひ。知。の。案内。と。知。り。さ。り。し。く。敵。に。引。包。れ。終。一。戦。に。利。と。失。ひ。
大小。お。れ。て。奔。走。し。芒。陽。山。の。去。る。所。東。林。案内。と。知。り。し。れ。ば。彼。不。得。り
夾。んで。攻。り。た。史。進。を。去。差。干。討。死。す。遠。く。又。七。十。里。引。退。く。揚。春
八。士。率。に。後。れ。走。り。し。知。る。頂。亮。小。も。傷。ま。れ。し。多。も。去。り。と。奔。り。
逃。去。ぬ。史。進。も。已。不。危。く。見。え。し。多。も。幸。ひ。に。恙。な。り。り。り。口。人。の。大。將
漸。級。軍。と。收。めて。暮。り。に。事。に。て。付。れ。し。多。史。を。これ。と。怒。へ。商。議。し。ぬ。
朱。武。が。云。ひ。神。ろ。て。八。將。と。多。人。と。難。く。也。速。小。人。と。梁山。泊。に。死。す。

す、後ひと求めんおはるくべうはと。評議區くありし、此小の天海より。二子
伴の人は推するより、較りれば、史進疎外不出てこれと見るに、乃ち梁山
泊の旌號ふして、あ人の大ね先をむ。一人の小李廣花榮一人の金
槍子徐寧あり。史を遂に是と迎へ、彼水のことと語りし。花榮が云
公、此人出陣の後、宋既飲心と安んじ、ありは別我亦友人と聲し、我を
助けしあり。史進亦大に悦び、飲くまて一別合を請えり。此軍の
以牙次巻小詳之

新編水滸畫傳卷之四拾九早

河

大坂備後町城町

